

しいわ だいらわ

- ◆栽培適地は、東北地域中南部です。
- ◆「あきたこまち」より多収の飼料用米品種です。
- ◆玄米は粒が大きく、白濁した部分があります。容易に食用品種と見分けがつかれます。

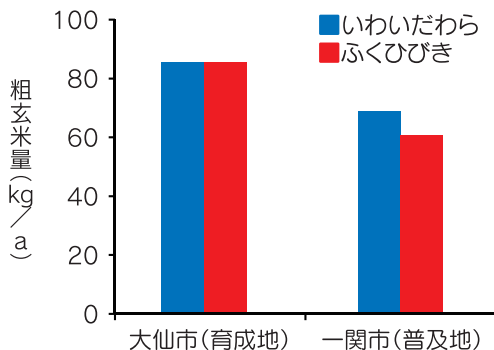


育成のねらい

我が国においては、家畜の飼料自給率向上および水田の有効活用のために、籾あるいは玄米を給与する飼料用米と、地上部の全体を粗飼料として給与する稲発酵粗飼料からなる飼料用イネの栽培が奨励されています。飼料用米の品種開発においては、各地域の気象・栽培条件に応じた出穂時期や多収性が求められます。また、食用品種との識別性を高めるため、玄米の外観が異なることが求められています。そこで、大粒で食用品種と識別できる早生の飼料用米品種を育成しました。

粗玄米収量

「いわいだわら」は、育成地において多収品種「ふくひびき」と同等の多収です。普及地の岩手県一関市においては、「ふくひびき」を上回る多収です。



栽培上の留意点

- ・温湯消毒および10℃以下の低温浸種は、避けてください。出芽が不安定となることがあります。
- ・極多肥条件では倒伏することがあるので、窒素施肥量は食用品種の慣行施肥量の1.5倍までとしてください。
- ・耐冷性が強くないので、冷害の常襲地帯での栽培は避けてください。
- ・いもち病真性抵抗性遺伝子“Pik”および“Pib”を保有すると推定されるため、通常、いもち病の発生は認められませんが、病原菌レースの変化により発生が認められた場合は適宜、薬剤防除をしてください。



▲いわいだわら ▲ふくひびき
(多肥移植栽培、2013年9月育成地)

栽培特性

品種名	いわいだわら	ふくひびき	あきたこまち
出穂期	7月30日	8月3日	8月1日
成熟期	9月17日	9月16日	9月14日
稈長(cm)	95	85	95
穂数(本/m ²)	327	415	531
耐倒伏性	やや強	強	やや弱
耐冷性	弱	やや弱	中
穂発芽性	やや易	やや易	中
いもち遺伝子型	Pik、Pib	Pia、Pib	Pia、Pii
葉いもち	不明	やや強	中
穂いもち	不明	中	やや弱
粗玄米重(kg/a)	85.5	85.9	74.8
玄米千粒重(g)	25.8	24.2	22.2
玄米品質	下上	中中	上中

育成地(秋田県大仙市)における試験成績(2008~2012年)。
多肥移植栽培(窒素成分12~15kg/a)。



▲いわいだわら ▲あきたこまち

玄米の粒が大きく白濁部分があるので、容易に食用品種と見分けがつきます。

品種の活用面

岩手県一関市において、畜産業者との連携により、平成25年度から作付が開始され、平成26年度は30ha作付されています。今後、東北地域中南部での栽培の拡大が期待されます。

《種子入手先》

農研機構東北農業研究センター 企画管理部 業務推進室 運営チーム
電話.019-643-3443 FAX.019-643-3405

《利用許諾に関するお問い合わせ先》

農研機構 連携普及部 知財・連携調整課 種苗係
〒305-8517 茨城県つくば市観音台3-1-1 電話.029-838-7390 FAX.029-838-8905

品種に関するお問い合わせは

農研機構東北農業研究センター 企画管理部 情報広報課まで

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4
電話.019-643-3414 FAX.019-643-3588
メール.www-tohoku@naro.affrc.go.jp http://www.naro.affrc.go.jp/tarc/

東北農研

検索

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。